

5年生

教科	成果	課題	重点取り組み
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文の学習で、全体の文章構成から要旨をつかむことができるようになった。 ・辞書を使った意味調べに意欲的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎筆者に対する自分の考えを「書く」こと。 ・漢字の定着における個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の時間に板書や自分の考え、学習感想などを書く時間を設ける。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・算数的活動をすすんで取り組む児童が多い。 ・立式から課題解決までの過程において、根拠に基づいて自分の考えを表せる児童が増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎答えを求めた後、検算をしたり、見直しをしたりすることをせず、間違いに気付かないことがある。 ・自分の考えを図や数直線等を使って表すことに苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中、図や数直線等を使って自分の考えをまとめさせる時間を確保し、丁寧に組み立てさせる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心が強く、意欲的な取り組みが見られる。 ・写真・映像などの資料を効果的に取り入れることによって知識が定着してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎社会的事象について、疑問に思ったことや感じたこと、自分の考えを書くことに苦手な児童がいる。 ・資料を正しく読み取ることが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の読み取り方を丁寧に指導し、そこから分かったこと、疑問に思ったことを考えさせ、自分の言葉でノートにまとめさせる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・理科への興味・関心が強く、特に、実験・観察に対して意欲的な取り組みが見られる。 ・写真・映像などの資料を効果的に取り入れることによって知識が定着してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎理科的な用語を正しく覚えられない児童がいる。 ・考察を書く際、自分の言葉でまとめることが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・結果から分かったこと、結果から生まれた新たな疑問など、考察に書く内容を具体的に示すようにする。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・音色や響きに気を付けて、旋律楽器や打楽器を演奏することができる。 ・曲想の変化を感じ取りながら音楽を聴くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎周りの音をよく聴きながら、音のバランスを考えて演奏することができていない。 ・音楽を形づくっている要素及びそれらにかかわる音符、休符、記号について、その意味や効果を理解することができていない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのパートの役割を理解した上で、合奏活動に取り組む。また、鑑賞活動を通して、音を聴き取る体験を多く積み、聴く力を付けていく。

<p>図工</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく制作活動や造形遊びに取り組める児童が多い。 ・最後までこだわりをもって作品制作ができる児童が多い。 	<p>◎自分が表したいものに合わせ、材料や表現の仕方を主体的に考えられる力を付けること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・忘れ物をする児童が多いので、忘れ物をなくすこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を確認しながら、どのような表し方ができるのかを思い出し考えられる機会を設ける。 ・資料を多数用意する。 ・毎時次週の持ち物の確認をし、自分で用意する意識を定着させる。
<p>家庭</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に積極的に取り組むことができ、作品作りには、特に意欲的に取り組む児童が多い。 ・裁縫道具を正しく使い、作品を作ることができる児童が多い。 	<p>◎学校や家庭において、知識の活用を図れるよう指導を工夫していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手先の不器用さが目立ち、縫い目がそろわない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科で学習したことを日常生活に関連づけることで、より一層の理解の定着を図っていく。
<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に対する意欲が高く、友達と協力しながら取り組むことができている。 ・体育に関する道具を正しい使い方できている。 	<p>◎運動技能に個人差があり、習得に時間を要する児童もいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題に向かって、どう取り組めばいいのか分からず、ただやみくもに取り組む児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動のポイントを学ぶ時間、学び合いの時間を意識的に設け、さらに深い学びにつなげていく。